

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4079600377		
法人名	有限会社 ベストケアカンパニー		
事業所名	いきいきハウス池尻		
所在地	福岡県田川郡川崎町大字345番地15		
自己評価作成日	令和5年2月3日	評価結果確定日	令和5年3月3日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.mhlw.go.jp/40/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ヘルスアンドライツサポートうりずん
所在地	福岡県直方市知古1丁目6番48号
訪問調査日	令和5年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自然豊かな山々に囲まれた場所に「いきいきハウス池尻」がある。現在、コロナ禍の情勢により制限はあるが、工夫して事業所内のイベントや地域との交流を継続して、利用者の方々の豊かな表情や笑顔ある時間を大切にしている。職員は事業所の理念、ケア目標を共有・実践し、状態変化を見逃さず日々連携が図れる体制を構築してきた。今後は、情勢をみながらではあるが、戸外へ外出していける環境を増やし、様々なイベントを考えていきたいと考えている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

継続している理念やケア目標などの唱和は、家庭的な楽しい時間を作るために心身ともに引き締める機会となっている。自分の思いを表出できる入居者が多く、今年も「〇〇したい」などの書初めが洗面所の壁に掲示され、廊下を動き回ったり玄関のドアを開けようとする行動をそのまま受け入れている。ホームページやホーム便りの発行で暮らしがりを発信し、家族の来訪時も気がかりなことを詳細に報告しているため、面会に関しては要望より労いの言葉が多い。小学校の年間行事になっている七夕交流は職員が向ういて打合せを行い、メッセージ付の七夕飾りが廊下に掲示され、今年度は入居者手作りのキーホルダーをプレゼントしている。殆どが正規職員で、実践者やリーダー研修、法人全体の研修で人材を育成し、人間関係が良く、業務の流れが円滑で働きやすいと笑顔で話す職員もあり、入居者も職員も「いきいき」できる「ハウス」づくりに邁進している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができて いる (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

ユニット／事業所名 **いきいきハウス池尻**

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝の朝礼時に、理念の唱和を行い共有と意識づけを図っている。事業所のケア目標は、連携を踏まえた内容としており、管理者と職員全体で実践に繋げている。	継続している朝の申し送り前の理念やケア目標などの唱和は、家庭的な楽しい時間を作るために心身ともに引き締める機会となっている。入職当初、理念を憶えるために手帳に書き留めたと話す職員もあり、日々理念の具現化に務めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域のイベント参加はコロナ禍である為、中止となっているが、地元小学校との七夕交流は続けており、手紙やDVDレターを通じて繋がりを深めている。	生徒のメッセージ付の七夕飾りが廊下に掲示され、今年度は入居者手作りのキーホルダーをプレゼントなど、地元小学校との交流が継続している。新年度は早々に管理者が学校を訪問し、打ち合わせをする予定である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年実施していた、地元高校の介護実習生の受入や地域住民向けの介護予防教室は中止となったが、再開の目途が立てば受託したいと考えている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は書面会議にて実施。委員からの意見の集約と事業所内の議題を併せて、行政及び関係者へ報告を行っている。	運営推進会議のメンバーの家族や地域代表などに入居者の暮らしぶりや行事、インシデント、インフルエンザ予防接種などを報告し、頂いた意見や感染対策などの慰労の言葉などを集約した会議録を送付している。会議録は玄関で公表している。	運営推進会議設置目的に勘案し、来月開催を予定されている会議内容を含めた今年度の会議内容を開設されたホームページで公表されることを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市町村担当者や地域包括支援センター、福祉事務所との連携により、相互の協力が得られている。	町から、敷地内の小規模事業所利用を依頼された方が入居に至ったり、保護課と連携しながら生活を支援する入居者もあり、地域密着型事業所として関係部署と連携したサービスに取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所の方針として身体拘束を行わないケアに努めている。また、グレーゾーンとなるケアやスピーチロック、ドラッグロック等、ミーティングや身体拘束適正化委員会で確認を行っている。	身体拘束適正化委員会や研修を開催し、「ちょっと待って」やトイレのドアを開けたままで介助していないか等のグレーゾーンの回避に努めている。車椅子からの滑落には、再三座位保持を介助し、食事時は卓用の椅子に移乗してもらっている。センサーの活用はない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止に関する研修や普段のミーティング等を通して、学ぶ機会を持ち、虐待が見過ごされないように共有を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度対象者はいないが、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学習する場を持ち、利用者家族やその関係者に対し、説明が出来るよう、パンフレットや資料を準備している。	日常生活自立支援事業や成年後見制度の活用や、関係機関の活用について協議を予定している入居者はないが、随時制度等の活用を支援するために資料を整備し、事業や制度の内容やその違いを学習している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書及び重要事項説明書を提示し、補足を加えながら、分かり易い説明を心掛けている。説明後に必ず納得、了承を得ており、変更の事項が生じた際には速やかに変更し、再度説明を行なう機会を設けている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	来所時や来所が難しい御家族には電話でその都度、状況報告を行っている。また、意見・要望を伺い、運営に活かすことを実践している。	ホームページやホーム便りの発行で暮らしぶりを発信し、家族の来訪時も気がかりなことを詳細に報告しているため、面会に関しては要望より労いの言葉が多い。要介護度変更に伴う利用料金の問い合わせにも応えている。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者及び管理者は連絡や面談等により、職員から直接意見や提案を聞く機会を設けている。また、ミーティングや業務報告の際に、意見を集約し、運営に活かしている。	毎月、午後の職員の手が空く時間帯にミーティングを開催している。スマートフォンで出勤を確認し、物価高騰の昨今、無駄をなくすことを申し合わせている。個別に職員の相談や指導に応じたり、常備薬購入で職員の健康管理に留意している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は、管理者や職員から意見を聞き、対話する時間を大切にしている。職員個々の努力や実績を把握し、職員がやりがいや向上心をもって働けるよう努めている。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	募集や採用に関しては国籍・年齢・性別等の制限はしておらず仕事に対するの熱意や意欲がある方であれば無資格・未経験の方でも採用を積極的に行っている。定年後の再雇用や子育て世代への勤務シフトの調整等、個々の能力が発揮できる環境づくりを行っている。	ハローワークや職員のロコミで、30代から50代の男女の職員が、日勤や夜勤のみ、ダブルワーク等個々の状況に応じて勤務し、殆どが正規職員である。職員の段階に応じて実践者やリーダー研修を受講し、年間研修計画に沿って法人全体で研修を実施している。シフトの希望が叶い、人間関係が良く、業務の流れが円滑で働きやすいと、職員は笑顔で話している。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人内部研修やミーティング等を利用して、人権教育を実施している。プライバシーや接遇、言葉遣いについても考え、実践している。	理念に入居者の尊厳を謳い、法人の年間研修計画に接遇に関する研修を組み入れ、敷地内の小規模事業所で開催している。日頃から、言葉使いや大声などを指導している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修により、教育の機会を確保し、外部研修には勤務シフトの調整や情報提供、受講支援を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	田川地区介護サービス事業所協議会の参加やリモート会議、相互訪問により同業者との交流が図れている。また、文書や電話でのやりとりにて関係性が継続できている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人からの聞き取りと家族からの情報提供にて入居に向けての環境づくりに努めている。入居後も経過を観ながら心理面のサポートと会話や仕草の中から要望を探り、ケアの提供を行っている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前より困りごとや要望を聞きとるようにしている。入居後は事業所も含め家族と一緒に本人をサポートしていく体制を整え、関係づくりに努めている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人及び家族の意向を把握し、必要としている支援を見極めている。また、ニーズが異なる場合は他サービスの情報提供や今後の支援の検討ができるよう対応を行っている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の能力に応じ掲示物の作成や、洗濯物たたみ、テーブル拭き等の家事の役割を受け持ってもらっている。職員・利用者という関係ではなく一緒に考えていくことで関係を築いている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	病院受診等、家族の協力を得て本人を支えていく関係を築き、面会時には状況報告や相談、要望等を話し合いながら家族と一緒に本人を支援する関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に関して一部制限はあるが、可能な限り一緒に過ごせるように支援している。かかりつけ医への継続した受診や顔馴染みの業者等の訪問により、関係性が途切れない支援に努めている。	馴染みの関係づくりや継続の重要性を十分に理解し、小学校の年間行事になっている七夕交流は職員が出向いて打合せを行い、家族への年賀状や暑中見舞い作りも継続し、訪問マッサージ業者に入居者が声かけをする関係を支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の関係性を把握し、職員が間を取り持つようにしている。交流が図りやすいよう食事席等の配置を考え、円滑な人間関係が構築出来るよう、支援している。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居利用者及びその家族、長期入院が必要になった方に対して、いつでも相談に応じられる旨を伝えている。状況に応じて電話連絡等で関係を保持している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日頃の様子や会話の内容から本人の思いを汲み取り、意向の把握に努めている。また、家族と協力して嗜好品の差入れや誕生日の際に可能な限り希望が叶う食事を提供している。	自分の思いを表出できる入居者が多く、今年も「〇〇したい」などの書初めが洗面所の壁に掲示されている。易興奮や暴力で退院を余儀なくされた方は、廊下を動き回ったり玄関のドアを開けようとする行動をそのまま受け入れ、入居1か月で落ち着きつつある。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴や馴染みの暮らし方を本人及び家族から情報収集し、把握に努めている。入居後も随時、伺い情報の更新を行っている。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りや介護記録に必ず目を通し、ミーティング等で新たな情報を共有できるよう現状の把握に努めている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人及び家族の意向と介護従事者の意見やアイデアを反映させながら、状態に応じたケア実践に向けて、介護計画を作成している。	定期的に基本情報やアセスメントシートで、本人や家族の意向、状態の変化を確認し、担当者会議で介護計画を見直している。重篤な疾患の悪化で自ら緩和ケア外来を受診した入居者もあり、再三声をかけて訴えを傾聴し、状態を細かに観察をしている。	把握した本人や家族の意向を計画に明記するとともに、状態の変化をアセスメントし、課題に沿った目標やケアを組み入れた現状に即した介護計画の作成を期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や言動等、情報を見逃さず、個人記録や申し送りノート等に記載を行っている。様子や状態の変化が分かるよう、職員間での共有を図り、介護計画の見直しに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	かかりつけ医以外の病院受診や送迎等、可能な限り家族の協力を得て、常に柔軟な方法や対応に心掛けている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域行事は中止となっているが、復活の兆しもみられている為、今後参加できるようにしていきたいと考えている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医の継続を基本にし、本人及び家族の意向を伺いながら、決定している。通院支援も柔軟に行っており、緊急時にも柔軟かつ円滑に対応が出来るようにしている。	昨今の状況から、医療機関受診は職員が交代で同行し、適切な医療受診を支援している。受診状況は随時家族に報告しているが、中には受診に同行する家族もある。訪問歯科診療も支援し、日頃の口腔ケアに活かしている。	
33		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	連携看護職員との双方で利用者の健康管理や身体機能の変化に応じて、協働してケアにあたっている。24時間体制で相談や緊急時の対応指示の連絡が出来る体制を整備している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医、病棟看護師、MSWと必要な情報交換を行っており、治療方針や経過、事業所側での支援方法等を本人及び家族の意向を踏まえながら早期退院に努めている。また、ビデオ会議等を利用し退院前カンファレンスに参加している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化及び看取りが生じた場合の説明を行い、意向確認を行っている。また事業所側で看取り介護が実施できる旨を伝え、情報を共有し、各関係者とチームで支援できるよう取り組んでいる。	重度化や終末期に向けた方針や意向確認書を整備し、サービス利用時のリスク説明書で急変・急死について説明している。これまで看取りはないが、「(ここは)あなたの家だから、帰ってくるから」と入院される方に声をかけている。系列事業所には102歳と超高齢の入居者もあり、状態の変化時だけではなく、今後は入居時にも方針を説明する予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な研修等を通じて救命の基礎知識やAEDの使用方法を習得している。日常のケアから観察のポイントを押さえ、急変や事故発生時に対する迅速な対応方法の周知徹底を図っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防訓練を年2回実施しており、実施の際には、近隣住民への声掛けや関係施設の職員の協力を得ている。また、避難確保計画やBCPを作成し、防災意識の高揚に繋げている。	年2回、通報や初期消火、避難訓練を実施している。地元消防団に協力を依頼できる体制を整え、災害時の福祉避難所として、食料品や感染予防グッズを備蓄し、大雪などの自然災害時、職員の宿泊場所の確保も検討している。	策定された自然災害時や新型コロナウイルス感染発生時の事業継続計画を法人全体で共有し、状況に応じた研修や訓練を期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	研修等において意識付けを行っており、プライバシーの確保や言葉かけに配慮し、配慮が必要な場面にはさりげないサポートや隠語を用いている。	○〇さんと氏名での呼称を基本としているが、家族の了解を得て馴染みのある愛称で呼称する入居者もある。排泄に関する情報を隠語で申し送るなど、入居者の尊厳に配慮した声かけや対応に務めている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で傾聴し、居室やリビングでの過ごし方等、希望の表出ができるよう努めている。表出が困難な方でも行動の内容を紐解きながら希望が叶うよう、働きかけている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本となる生活リズムを守りつつ、利用者個々の希望に沿えるようペースを尊重し支援を行っている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一緒に着る服を選んだり、希望する洋服を準備する等、その人らしいおしゃれが出来るように支援している。また、ヘアスタイルや散髪の時期を本人と相談し設定を行っている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	役割の中で、食器の後片付けやテーブル拭き等、職員と一緒に取り組んでいる。また、誕生日会やクリスマス会、正月等の食を楽しむイベントを多く取り入れている。	訪問日は入居者が好きなカレーの匂いが厨房から漂い、昼食前の口腔体操は活気があった。誕生日には赤飯と好みの一品が用意され、食事が減り家族が持参した栄養補助食品で補食したり、口元まで食事が届かず介助する入居者もあるが、毎食完食する入居者が殆どである。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分摂取量、体重の増減や食事形態の変更等の確認を日々観察し、対応にあたっている。栄養バランスの摂れた食事メニューを提供し、状態に応じた支援を行っている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、必ず口腔ケアを実施し、可能な限り自己にてブラッシングして戴いている。状況に応じて訪問歯科医の管理指導を受けており、感染症や肺炎予防にも繋がっている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄パターンに合わせ、トイレ誘導介助を主体にオムツを使用しないアプローチを実行している。殆どの方がトイレ排泄を継続できており、夜間においてもトイレ誘導介助を実施している。	リハビリパンツや尿取りパットの使用もあるが、個々の排泄パターンに応じてトイレに誘導したり、立ち上がりや便座への移乗介助で、気持ち良い排泄を支援している。夜間も同様の支援で、おむつなどの衛生用品の軽減になっている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動量や水分摂取量の把握、消化の良い食物や食物繊維を多く含んだものの提供を心掛け、便秘の予防に取り組んでいる。排便困難者に対しては主治医と相談しながら自然排便が出来るよう対応に努めている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	健康状態や本人の予定に合わせて、入浴日は事業所側で決定しているが、利用者個人のペースで入浴を行っている。また、ゆず湯や音楽を流す等してリラクゼーションに努めている。	浴室は清掃が行き届き、ゆったりとした個浴槽で週3回を目途に好みのシャンプーを使用したり、お馴染みの演歌を聞きながら入浴したり、コミュニケーションを大切に声かけなどで、笑顔で入浴を楽しめるように支援している。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の適度な活動と併用して休息する時間を設けている。就寝時間も生活習慣に応じて柔軟に対応しており、音や照明等にも配慮して、リラックスできる環境形成に努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の効能や薬を服用するに至った経緯、副作用等を職員一人一人が把握できるよう周知にしている。また、服薬セット・服薬前後チェックは厳重に行い、変更があった際にはその都度、申し送りを徹底している。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物たたみやテーブル拭き、飼犬の散歩等個々に応じた役割があり、職員と一緒に楽しみや気分転換が共有できるよう、努めている。また嗜好品の購入代行等を行い支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩や園芸の手入れ等、職員と一緒に楽しみが継続できるよう支援している。来年度には外出行事や買い物支援の再開、外食の企画も考えている。	コロナ禍の中、職員や家族同行の受診も外出の機会と捉え、気分転換を図っている。日頃はホーム周辺や園庭を散歩しているが、感染収束の折には、季節毎の花見や外食などを企画している。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭を所持している人はいないが、物品の購入や支払いがある際は、可能な限り本人の手から支払いが出来るよう、支援をしている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	日頃から手紙や電話のやり取りが行えるよう、関係の継続に努めている。(職員の代筆、代電含む)		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下や共有スペースには季節に合わせた装飾や協働で制作した貼り絵等を掲示している。ソファ等でゆっくりくつろいでいただける環境もあり、テレビの音量や室温の調整等、利用者が不快にならないよう、居心地に配慮している。	玄関には大型空気清浄器が設置され、広い廊下の壁に掲示された地元小学校から贈られた七夕飾りが目を引いている。居間は、傍の厨房から美味しそうな匂いが漂い、ラジオ体操や口腔体操に励む入居者の姿がある。広い掃き出しの窓は面会の場になり、眼下の民家や四季折々の山並みが展望できる。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	思い思いに過ごせる場所を設定し、配慮を行なっている。仲の良い利用者同士の談話やゆとりを持って過ごせる時間を大切に、時に職員が間を取り持つなど工夫している。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みのある家具や調度品を持ち込んで戴けるようにしている。本人の要望を聴きながら家族との写真やイベントの掲示物を居室に配置することで心地良いと感じて戴けるよう、支援している。	居室前には名前を大きく記載した表札が掲示され、引き戸を開けると備え付けベットや箆笥や日用品が持ち込まれている。家族写真を飾ったり、職員が描いた好きなアイドルの似顔絵を掲示した居室もあり、居心地よい設えとなっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	事業所内は車椅子・歩行器等、動線のスペースが確保されており、廊下には手摺が配置されている。利用者の方々の能力を理解し、安全かつ個々に合わせた使用を行っている。		